

## 年間第25主日

福音朗読 マタイ 20・1-16

2023.9.24 11:30 敬老ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日、わたしたちは「敬老のミサ」ということで、高円寺教会として年齢の該当する方がここに集まってくださっていて、一緒にごミサをお捧げしておりますが、本来でしたらば、わたしたちだけではなくて教会全体のお祝い、世代を超えての祝いにしたいんです。しかし会場とか聖堂の大きさの問題、そしていろいろな準備の都合でこうなっていますが、心は、教会としてお祝いする、そして皆さんがまたお祝いされる側だけではなくて、ご自分のそれぞれの人生の歩みを感謝し、またお互いにお祝いし合う、そういう心で、今日ご奉仕してくれている方々が教会の代表として一緒に来てくれている、そんなつもりで、ごミサをお捧げしたいと思います。

ところで、カトリック教会の中で「敬老の日」に当たるのは、「祖父母と高齢者のための世界祈願日」という日が7月に制定されております。ただ、日本の司教様たちは、日本では既に「敬老の日」があるのでということで、来年からこの「祖父母と高齢者のための世界祈願日」を9月にお祝いすることにされたので、来年からはわたしたちの行事と教会の記念日がしっくり来るということになります。

その「祖父母と高齢者のための世界祈願日」のために教皇様は毎年メッセージをお出しになっています。[今年のメッセージ](#)のテーマは、マリア様が救い主の母になるというお告げを天使から受けたあとで、あなたの親類のエリサベトも高齢なのに身籠っているという、エリサベトのことを聞いて、マリア様がエリサベトのもとに会いに行く、いわゆる聖母のご訪問の場面を黙想するというふうに教皇様はわたしたちを招いていらっしゃいます（ルカ 1・39-56 参照）。世代の違うエリサベトとマリアが、でも神様の恵みのうちに共に出会うという。

ですから、その場面をテーマとするというのは、祖父母と高齢者のための世界祈願日のテーマだけではなくて、実は今年の夏にポルトガルのリスボンで行われましたワールド・ユース・デー（世界青年の日）、若者たちの集まりのためにも教皇様は同じ場面を黙想するように若者たちにも促されたわけです。世代の異なる者同士が互いの恵みのうちに会うということが、いつも教皇様が呼び

かけていらっしゃることなわけです。若者たちからすれば、自分が今いるというのは自分の力だけではない、ずうっと前の世代から受け継いだ、命もそうだし、文化もそうだし、いろいろなことのお陰で今あるということを思い起こすと同時に、高齢者にとってはその若者が、神様が自分たちの希望を受け継ぐ者として、神の業が続いていることのしるしとして送ってくれたものとして、また感謝して受け取るように、そういう呼び掛けなんです。

でも、今自分だけ、また、今だけ、っていうような中にももの見方が閉じ籠っていけば、世代間の交流もまた時間の中で実現していく神様の恵みも見失ってしまうということがあるわけです。ですから、わたしたちは互いに出会い合うことを通して、自分の中で働かれる神様の恵みにもう一回心を向けることが大切だということです。

少し、教皇様のメッセージを引用して朗読いたします。

「神の流儀をしっかり受け入れるには、時を存分に生き切らねばならないということを思い起こしましょう。重要な出来事やすばらしい夢はひとときのうちになし遂げられるものではなく、成長と成熟を経て、歩みと対話とかかわりを続けることで果たされるからです。ですから、即座ということばかりに、つまり直ちにごっぴり頂戴しよう、「すべてを今すぐに」ということばかりに神経を使う人は、神の働きが見えなくなってしまう」。

教皇様はこのようにおっしゃるわけです。わたしたちが今一人ひとりの人生を振り返りながら、その中で神様の恵みをもう一回神様と共にたどり直して再発見し、そしてまだ完全に実現していないこの恵み、個人においてもまたこの世界のレベルにおいても、神様がそれを時の中で実現してくださる、そのことを希望を持って待ち望む心を新たにしたいと思います。

それでは、これから病者の塗油をご希望の方にいたします。

参照：

第3回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」教皇メッセージ 2023年7月23日  
<https://www.cbcj.catholic.jp/2023/06/28/27307/>